特別記事

Interview

# 来日直前！パトリツィア・コパチンスカヤ なにものにも縛られない芸術

取材・文＝中東生
Text=Shinobu Naka

パトリツィア・コパチンスカヤは、2002年にクレディ・スイス・ヤングアーティスト賞として賞金7万5000スイスフランを受賞し、スイスからブレイクしたアーティスト。英才教育とは無縁の野生的な幼少期や、靴を脱いで弾く個性的な演奏法は聴衆の心を鷲掴みにするが、スイスに居を構え、家庭生活となにものにも縛られない彼女特有の芸術を両立させている。そのため、自由になる時間が少なく、インタヴューの約束を取り付けるのも容易ではないが、今回は彼女のプロジェクトを通して話を聞いた。

**Just before coming to Japan, Patricia Kopatchinskaja**

## 小児がんのためのチャリティ・コンサート

昨年11月25日、チューリヒのトーンハレ・マーグで小児がんの研究費を集めるためのチャリティ・コンサートが行われた。

「私たちの家族の一員である小さな男の子が、急性白血病にかかったの。彼はなんとか一命を取りとめたのだけれど、生と死の間で闘う彼を見るのは胸が潰れそうな体験だった。最終的に彼は、チューリヒ子供病院の医師たちのおかげで克服できたの。そのとき試験的な療法で治療に当たってくれたニコラス・ゲルバー先生は、私たちの娘のゴッドファザーで、ピアニストとしても活躍していた人。15年前には数々のコンサートで共演したわ。私たちは彼から、『小児がんの研究は、患者数が少ないために、製薬産業にとって研究費を投入しても利益に結び付かず、常に経済的困難を抱えている』と聞かされたの。それで私たちのコンサート活動を再開したのよ。ニコラスは天才的なピアノを弾くので、私は彼と弾くのが大好きだし、彼からたくさん学べるの。チャリティ・コンサートは大成功で、小児がんの研究資金が15万スイスフランも集まったのよ！」

この企画は継続されていくのだろうか。

「私サイドからはもちろん！ 来年は無理だけど、もう次のチャリティ・コンサートを計画中なの」

## クルレンツィスと4月に来日

もうすぐテオドール・クルレンツィスと再来日されるので、日本でも活動できますね。

「ええ、4月の東アジア・ツアーまで時間がまったくありませんけど……。でも、クルレンツィスと、彼のユニークなロシアン・オーケストラ、ムジカエテルナと音楽を作り上げられるという機会に恵まれたのは、本当に幸運だと思うわ。彼らと共に演奏するのは、ほかに類を見ない体験となるの。私たちはモーツァルト、ベートーヴェン、メンデルスゾーン、ベルク、チャイコフスキーなど多くの共演を重ねたし、チャイコフスキーはソニー・クラシカルと録音したわ。テオと彼のオーケストラは共演者を縛ることは決してないので、炸裂し、すべてを投入できるの。いっしょに弾いていて強制されたと感じたことは1度もないわ。スコアをダイレクトに読むことは、音楽を作りあげる上でもっとも根本的な方法よ。そして本番中はいつもスリリングで突発的なので、好奇心を刺激される。一度も同じではなく、常に生きた会話なのよ。今回の東アジア・ツアーではベートーヴェン『ヴァイオリン協奏曲』を弾くけれど、私はこの曲を『オーケストラによる交響曲とヴァイオリンの即興演奏』だと解釈しているの」

www.patriciakopatchinskaja.com/beethoven?lang=en

クルレンツィスとセットで語られることが多いコパチンスカヤだが、その自由な音楽はますます注目を集めている
© Marco Borggreve

**パトリツィア・コパチンスカヤ**

1977年、モルドヴァ生まれ。作曲とヴァイオリンをウィーンとベルンで学ぶ。2000年シェリング国際コンクール優勝、2002年「クレディ・スイス・グループ・ヤング・アーティスト賞」ほか受賞多数。ウィーン・フィル、ベルリン・フィルといった世界のトップ・オーケストラと共演を重ね、ルツェルン、ザルツブルク等、世界各地の名門音楽祭からも数多く招かれている。2008年、ファジル・サイとのデュオで初来日。昨年、テオドール・クルレンツィス指揮／ムジカエテルナと来日、チャイコフスキー「ヴァイオリン協奏曲」を演奏した。

**■公演情報**

**テオドール・クルレンツィス指揮＆ムジカエテルナ**

〈日時〉4月14日19時〈会場〉サントリーホール〈共演〉パトリツィア・コパチンスカヤ（vn）〈曲目〉ベートーヴェン「ヴァイオリン協奏曲」、同「交響曲第7番」〈問合せ〉カジモト・イープラス0570-06-9960